

国立大学法人 奈良先端科学技術大学院大学

# 財務報告書

Financial Report 2012



NAIST®

# 限りなき未知への探求

## 目的

学部を置かない国立の大学院大学として、最先端の研究を推進するとともに、その成果に基づく高度な教育により人材を養成し、もって科学技術の進歩と社会の発展に寄与することを目的としています。

## 理念

▶ 先端科学技術分野に係わる高度な研究の推進

▶ 国際社会で指導的な役割を果たす研究者の養成

▶ 社会・経済を支える高度な専門性を持った人材の養成

▶ 社会の発展や文化の創造に向けた学外との密接な連携・協力の推進

# Contents

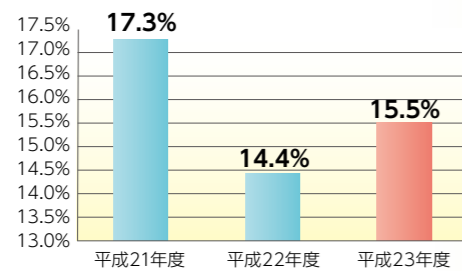
- 「最先端」を追求し続ける奈良先端大
  - 財務データで見る奈良先端大
  - ランキングで見る奈良先端大
- 平成 23 年度 損益計算書（費用）の状況
- 平成 23 年度 損益計算書（収益）の状況
- 平成 23 年度 貸借対照表（資産）の状況
- 平成 23 年度 貸借対照表（負債・純資産）の状況
- 財務諸表等の推移
  - 損益計算書
  - 貸借対照表
  - キャッシュ・フロー計算書
  - 業務実施コスト計算書
- 財務データ



## 財務データでみる奈良先端大

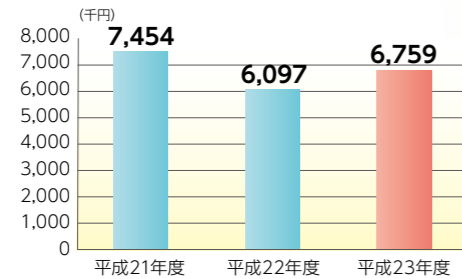
### 外部資金比率<sup>\*1</sup>

受託研究等の外部資金に研究費をどれくらい依存しているかがわかる指標です。本学の外部資金比率は国立大学法人の全国平均である8.9%（2012年度）と比較しても非常に高い値を示しています。



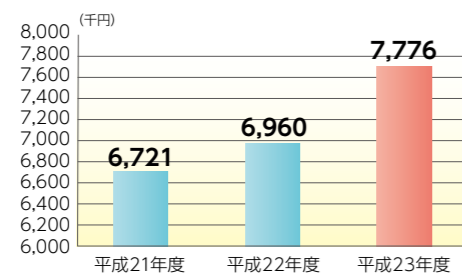
### 教員一人当たり外部資金収益額<sup>\*2</sup>

教員一人当たりでみた外部資金収益をみると、675万円となっており、本学の教員は他大学と比べ、外部資金獲得力が優れていることがわかります。



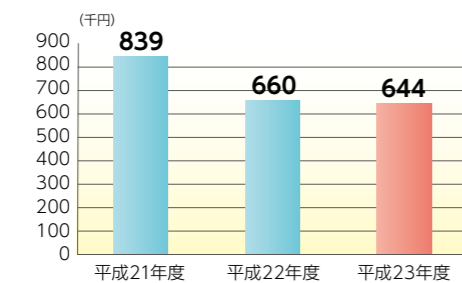
### 教員一人当たり研究経費<sup>\*3</sup>

教員一人に対して、どれだけの研究経費を投資しているかがわかる指標です。本学では、総予算内でのバランスを考えたうえで、積極的に予算投入をしております。



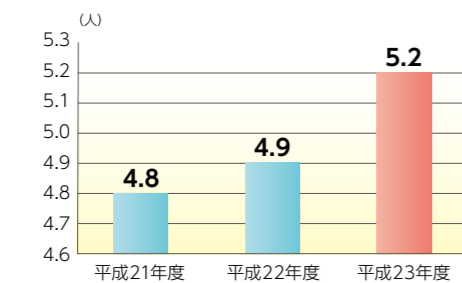
### 学生一人当たり教育経費<sup>\*4</sup>

学生一人に対して、どれだけ教育経費を投資したかがわかる指標です。本学では、総予算内でのバランスを考えたうえで、充実した教育環境を目指し、予算投入をしております。



### 教員一人当たり学生数<sup>\*5</sup>

教員一人で何人の学生を担当しているのかを表す指標です。本学では教員一人に対して学生数が5.2人となっており、他大学と比べ、教員の目が学生に行き届き、丁寧な教育研究の指導体制をとっていることがわかります。



データ出所 奈良先端科学技術大学院大学財務諸表等及び事業報告書（以下、財務諸表等）、文部科学省「国立大学法人の平成23事業年度財務諸表の概要及び別紙資料集」（以下、文科省資料）より ※1：外部資金比率＝

# 「最先端」を追求し続ける奈良先端大

大学院大学として最先端の研究・教育を実現している

奈良先端大の強さは、数字となって表れています。

安定した財務内容と最適な研究・教育環境を基盤として、研究者・学生に対する十分な投資が、他大学には類をみない最先端の成果を創出しています。

## 卓越した研究成果が新たな最先端分野の研究受託を生み出す好循環を実現

外部資金比率 **15.5%**

教員一人当たり外部資金収益額 **675万円**

教員一人当たり研究経費 **777万円**

学生一人当たり教育経費 **64万円**

教員一人当たり学生数 **5.2人**

### 研究者・学生に対する十分な投資

教員一人当たり研究関連資産額 **991万円<sup>\*6</sup>**

教員及び学生一人当たり教育研究支援関連資産額 **218万円<sup>\*7</sup>**

学生一人当たり教育関連資産額 **26万円<sup>\*8</sup>**

本学の研究設備は最新・最先端のものを導入し、安定した財務基盤によって維持・更新されています。

### 研究・教育に最適な環境を整備

自己資本比率 **59.4%**

自己資本比率は財務の安定性を示す指標です。借入金による土地取得のため、若干低い値となっていますが、今後償還に係る会計処理で少しずつ回復していきます。

流動比率 **60.0%**

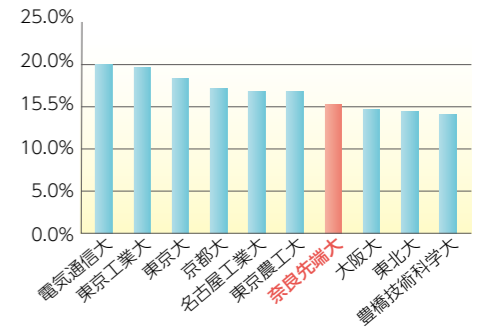
流動比率は支払能力を示す指標です。通常100%が適正とされますが、流動負債には毎年予算措置される長期借入金の当該年度支払額が含まれているため、期末時点では低い値となっています。

### 安定した財務基盤

## ランキングでみる奈良先端大

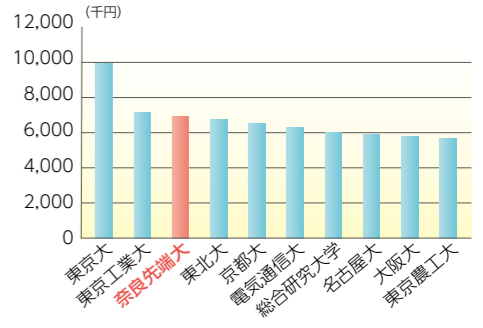
### 外部資金比率トップ10 (2012年度)<sup>\*1</sup>

本学外部資金比率は全国86国立大学法人中7位という水準にあります。国内有力大学と匹敵する研究力を表しています。



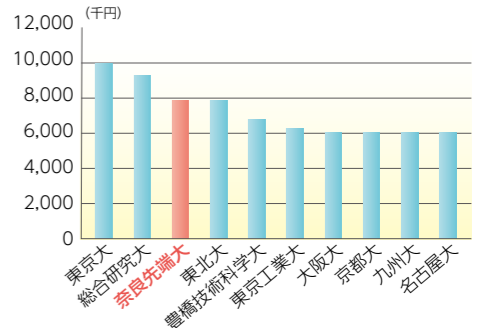
### 教員一人当たり外部資金収益額トップ10 (2012年度)<sup>\*2</sup>

本学の教員一人当たり外部資金収益は、全国86国立大学法人中で3位の水準にあります。国内有力大学と匹敵する研究力を表しています。



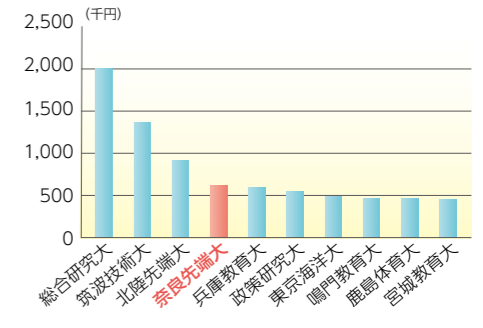
### 教員一人当たり研究経費トップ10 (2012年度)<sup>\*3</sup>

教員一人当たりの研究経費は、全国86国立大学法人中3位の水準となっています。他大学と比較して、非常に高い水準の研究経費への投資を行っていることが表れています。



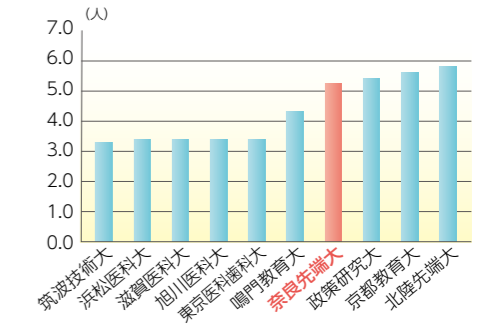
### 学生一人当たり教育経費トップ10 (2012年度)<sup>\*4</sup>

学生一人当たりの教育経費は、全国86国立大学法人中4位の水準にあります。教育、医師、技術系の大学と匹敵する教育投資を行っていることが表れています。



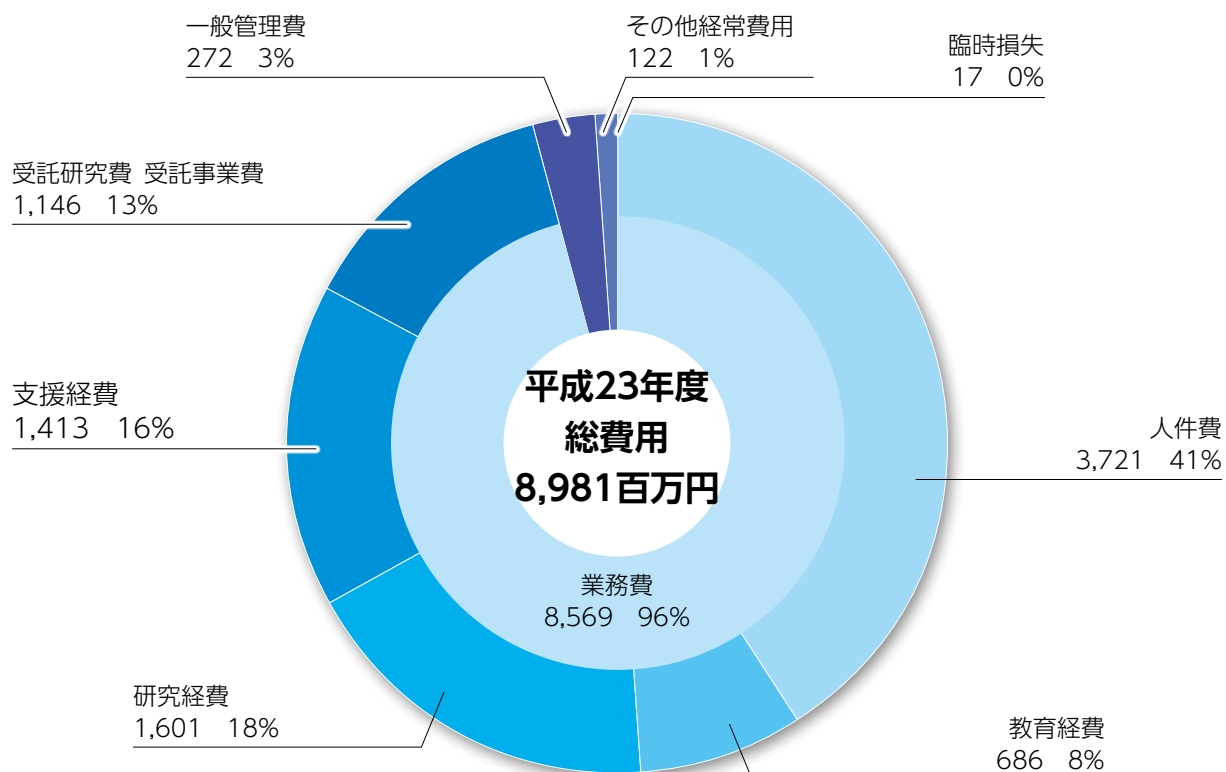
### 教員一人当たり学生数トップ10 (2012年度)<sup>\*5</sup>

本学の教員一人当たり学生数は、全国86国立大学法人中7位の水準にあります。他大学と比較して、よりきめ細かな教育研究指導環境が整っていることが表れています。



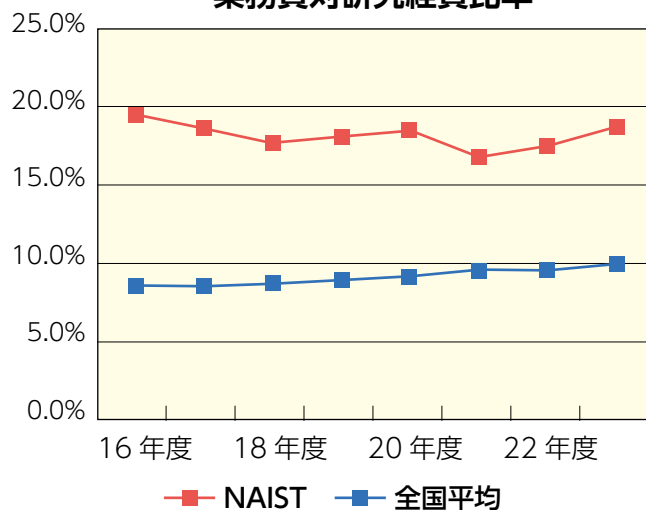
(受託研究収入＋受託事業収入＋寄附金)÷経常収益、※2：教員一人当たり外部資金収益＝外部資金収益額÷教員数、※3：教員一人当たり研究経費＝研究経費÷教員数、※4：学生一人当たり教育経費＝教育経費÷学生数、※5：教員一人当たり学生数＝学生数÷教員数、※6：研究関連資産2,042百万円÷教員数206人、※7：教育研究支援関連資産2,780百万円÷(教員数206人＋学生数1,066人)、※8：教育関連資産283百万円÷学生数1,066人

## 平成23年度 損益計算書 (費用) の状況

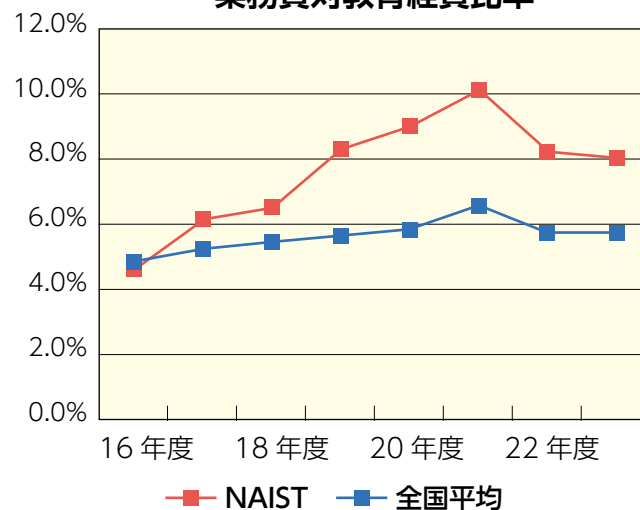


単位：百万円

### 業務費対研究経費比率



### 業務費対教育経費比率

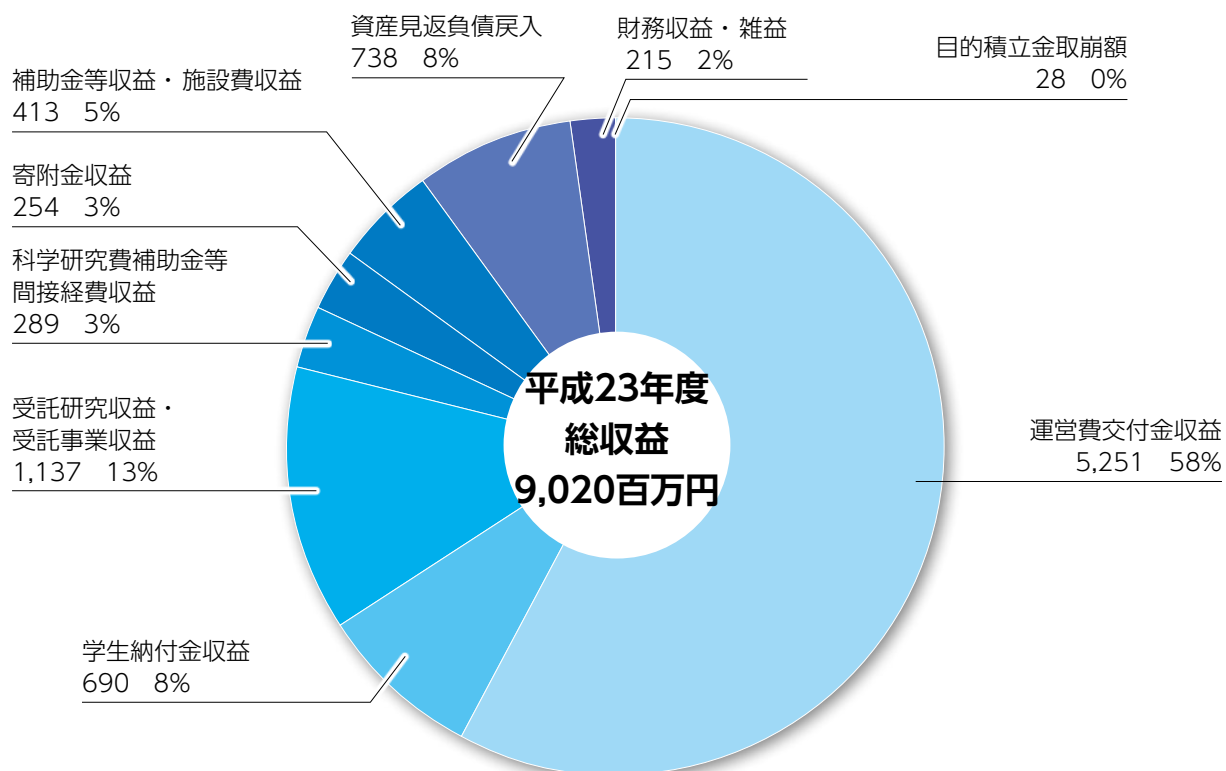


### 損益計算書 (費用)

損益計算書の費用は、大きく分けて、業務費、一般管理費、財務費用等に分けられ、これらの合計は経常費用となります。業務費は、教育経費、研究経費、人件費等が含まれ、大学の経営に必要な費用となっています。また、一般管理費は、大学を維持管理していくために必要な経費です。その他経常費用は、借入金、リース料の利息となっています。

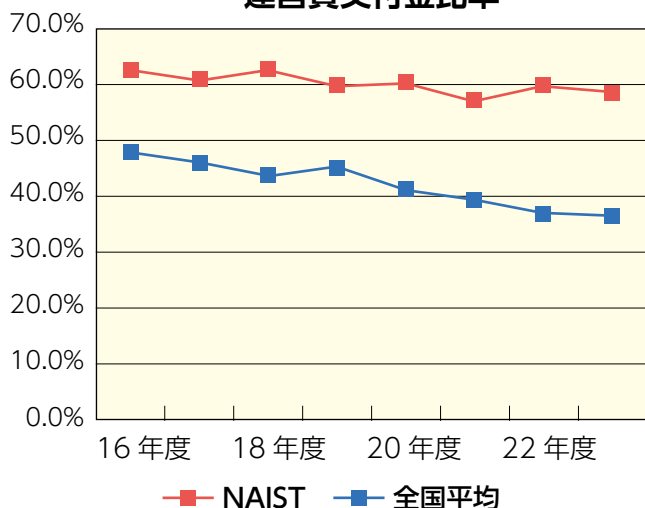
本学の損益計算書(費用)の特徴は、業務費対研究経費比率及び業務費対教育経費比率にあります。業務費に対する研究経費の割合は、全国86大学法人の平均の倍以上の割合を示しており、大学院大学としての本学の姿が強く表れています。さらに、業務に対する教育経費の割合は、全国平均よりも高い割合を示しており、教育にも投資をしている本学の姿勢が表れています。これらから、本学の教育研究に対する環境の充実度が見て取ることができます。

# 平成23年度 損益計算書 (収益) の状況

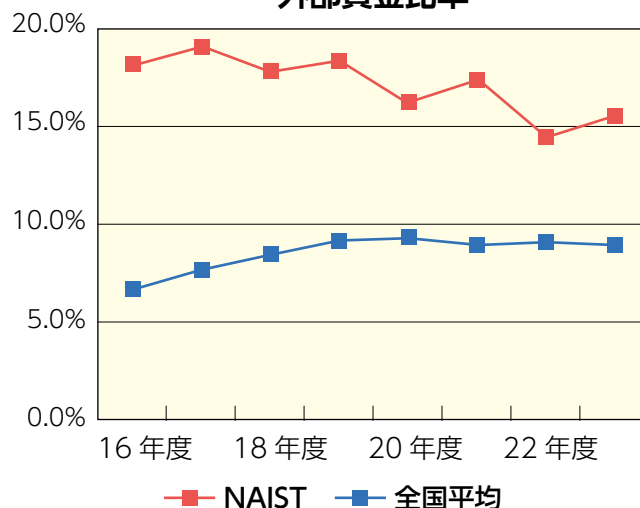


単位：百万円

### 運営費交付金比率



### 外部資金比率

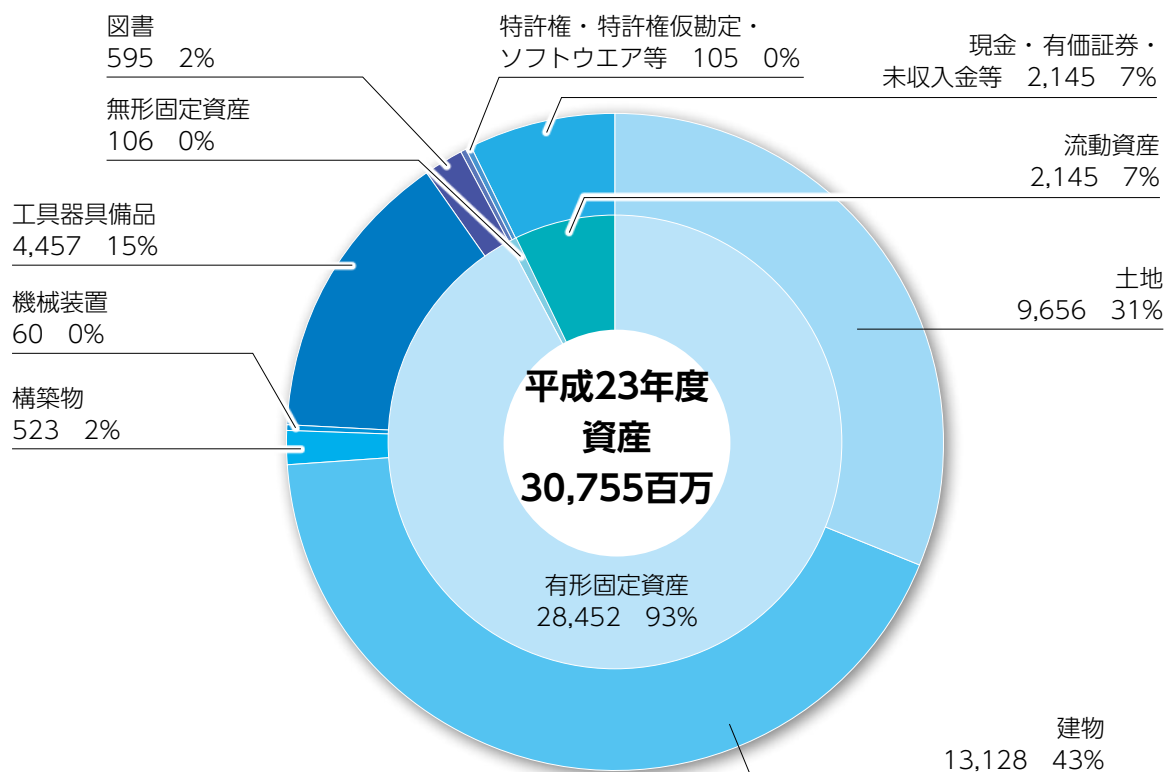


## 損益計算書 (収益)

損益計算書の収益は、法人が獲得した財源ごとに計上されています。それぞれに収益化の基準があり、そのルールに従い、収益が計上されています。運営費交付金や授業料については、期間進行基準が適用される（一部異なるものがある）ため、法人が努力する（費用を抑える）ことにより、利益が発生することとなります。

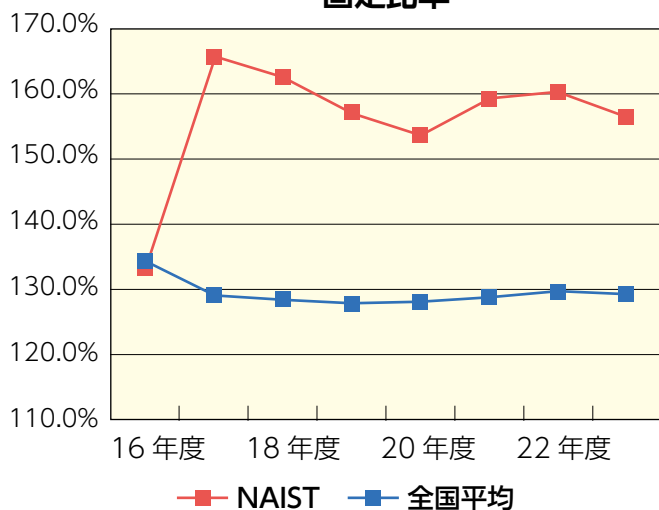
本学の損益計算書（収益）の特徴としては、運営費交付金比率及び外部資金比率にあります。運営費交付金比率は、一貫して全国平均を上まわっております。これは、本学が理工系の大学院のみの大学であるために、学部学生が在籍しないことから、国立大学法人の自己収入の大半を占める学生納付金収益が少なく、また病院収益がないことから、総収益に占める運営費交付金収益の割合が高くなってしまっている状況にあります。しかし、外部資金比率が一貫して全国平均より高いことから、外部資金の獲得力が高い、つまり、優れた研究が行われていることを表しています。

# 平成23年度 貸借対照表 (資産) の状況

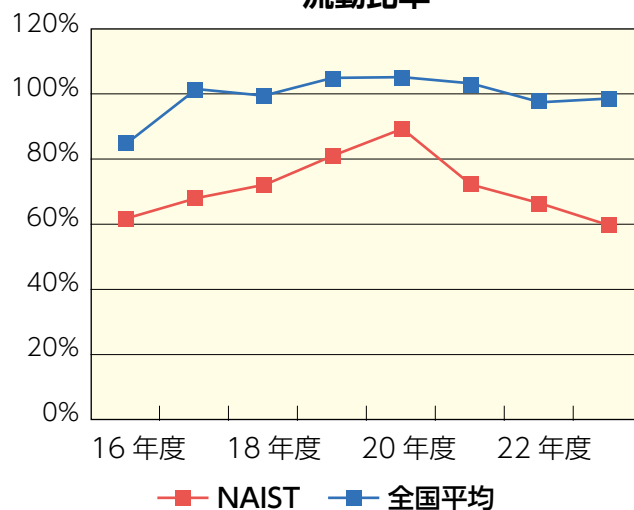


単位：百万円

### 固定比率



### 流動比率

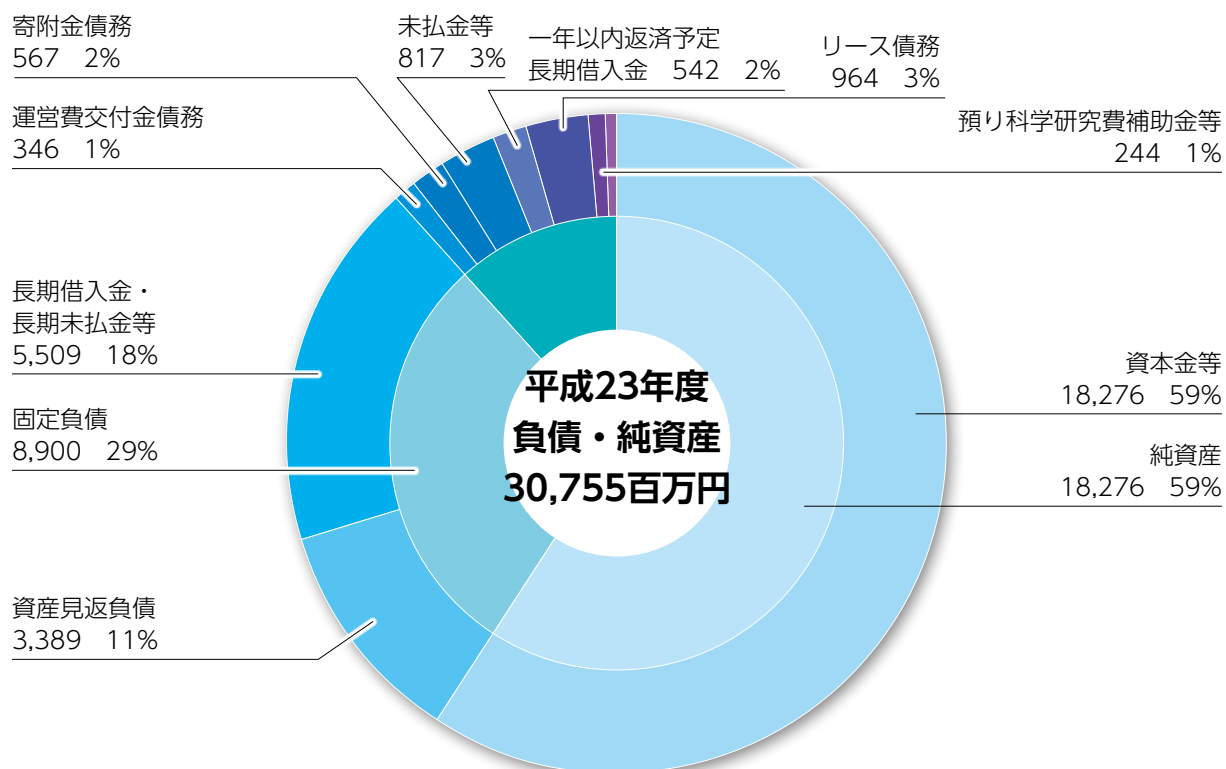


## 貸借対照表 (資産)

貸借対照表の資産の部は、法人が所有する固定資産と流動資産の期末残高を表しています。資産の約9割は土地、建物及び教育研究用機器が占めています。これから大学にとって、固定資産が重要であることを貸借対照表で表現していることが見て取れます。

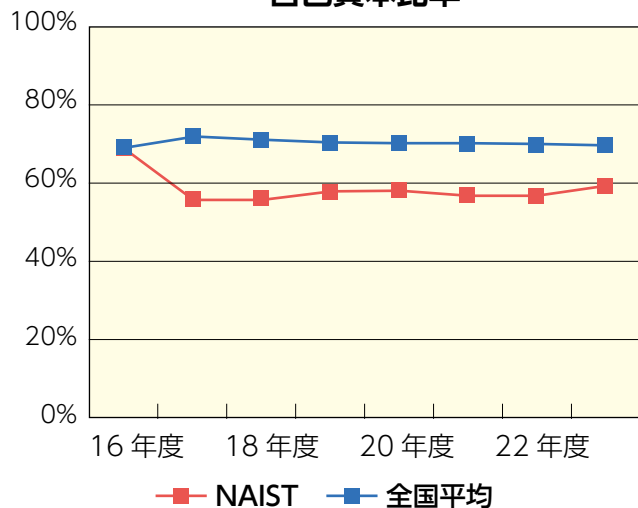
本学の貸借対照表 (資産) の特徴は、固定比率と流動比率にあります。固定比率については、全国 86 大学法人の平均よりも高い値となっています。これについては、法人化の翌年に教育研究用に土地を取得したことによるものですが、当該資金は国からの運営費交付金により措置されているため、財政上に影響があるものではなく、指標は徐々に改善されていきます。また、流動比率については、全国平均より低い値となっていますが、これについても前述の理由によるものです。

# 平成23年度 貸借対照表(負債・純資産) の状況

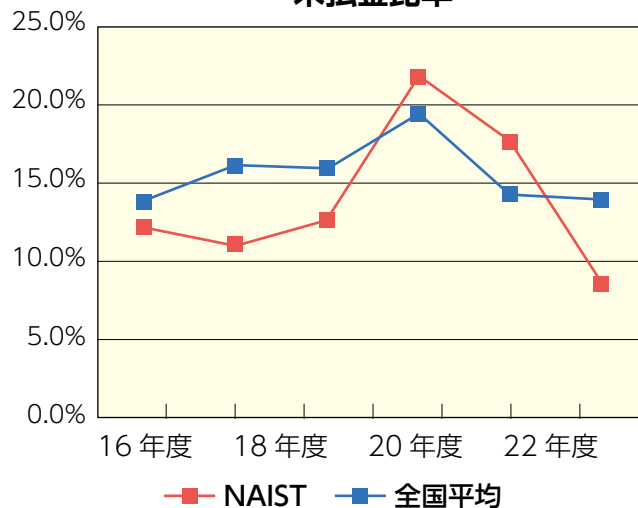


単位：百万円

### 自己資本比率



### 未払金比率



## 貸借対照表 (負債・純資産)

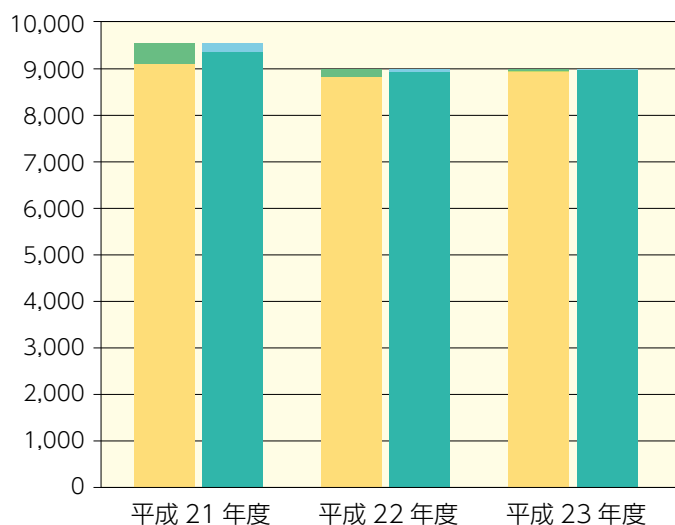
貸借対照表(負債・純資産)は資金の調達源泉を表しています。負債は他人資本、純資産は自己資本となっています。また、固定負債に含まれる資産見返負債は、固定資産の期末簿価(運営費交付金等により取得した資産)と同額が計上されています。これは国立大学法人特有の会計処理の一種となります。

本学の貸借対照表(負債・純資産)の特徴は、自己資本比率と未払金比率にあります。自己資本比率については、全国86大学法人の平均よりも低い値となっていますが、これは法人化の翌年以降の借入金による土地購入の影響によるものです。今後、借入金の償還が進むことで改善されていきます。未払金比率については、過去2年間、全国86大学の平均よりも高い水準でしたが、今年度は全国平均を下回る水準まで低下しております。

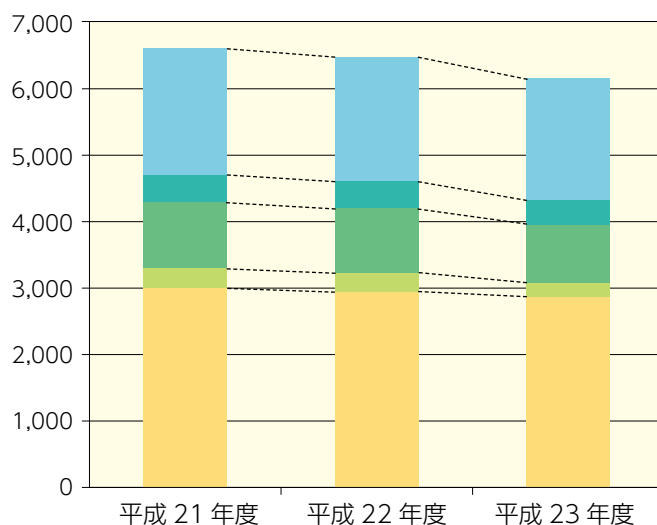


# 財務諸表等の推移

## 損益計算書



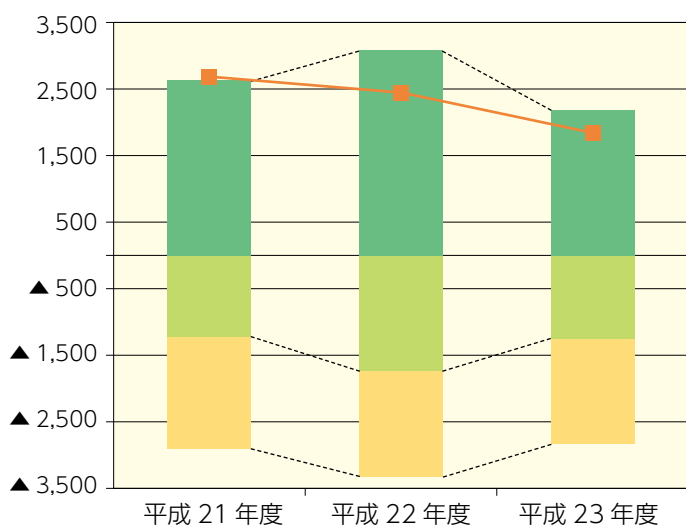
## 貸借対照表



● 経常費用 ● 臨時損失等 ● 当期純利益 ● 経常収益 ● 臨時利益等

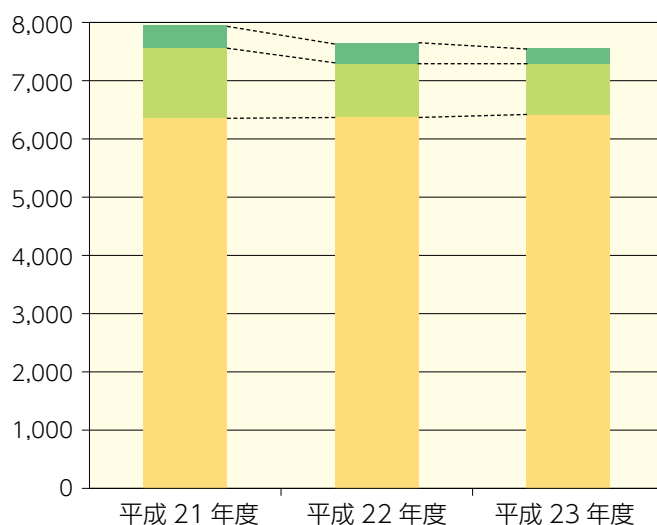
● 固定資産 ● 流動資産 ● 固定負債 ● 流動負債 ● 純資産

## キャッシュ・フロー計算書



● 業務活動によるキャッシュ・フロー  
● 投資活動によるキャッシュ・フロー  
● 財務活動によるキャッシュ・フロー  
■ 資金残高

## 業務実施コスト計算書



● 業務費用 ● 損益外減価償却等相当額等 ● 機会費用

◆損益計算書：平成 21 年度は多額の補助金等の獲得により、費用収益ともに大きかったものの、その後は毎年度運営費交付金が削減される中で、外部資金等の獲得努力により前年度とほぼ変わらない実績を上げ、順調に推移しています。

◆貸借対照表：借入金の償還により、負債が減少しており、順調に推移しています。

◆キャッシュ・フロー計算書：期末の支払額及び精算による入金額等でキャッシュ・フロー自体には年度ごとにブレが生じますが、予算の範囲内での執行を行っているため、キャッシュ・フローについては問題ありません。

◆業務実施コスト計算書：効率的な運営により、総額は毎年減少しています。





本件に関するお問い合わせ先

**国立大学法人 奈良先端科学技術大学院大学** 経営企画部会計課決算係

〒630-0192 奈良県生駒市高山町8916-5(けいはんな学研都市) TEL0743-72-5035 本学ホームページ: <http://www.naist.jp/>